

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	企業と連携したフードドライブ活動推進事業
資金分配団体名:	一般社団法人全国フードバンク推進協議会
実行団体名:	特定非営利活動法人ふーどばんくOSAKA
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	大阪府
事業対象者:	コロナで貧困や孤立している子どもたち

Version 3.2
日付: 2022年3月7日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>フードドライブ活動に取り組む企業と連携し、市民に「食品ロス」活動を周知し活動意識を高める。集まった食品を地域で活躍する「子ども食堂」に提供し貧困や孤立している子どもたちへの支援へと繋げ地域全体で繋げ地域全体で活性化をめざす。また、子ども食堂も現状のコロナ禍で調理をして提供することが難しくなったことから「弁当」や「ドライフード」を提供する、いわゆるパントリー活動へと移行しているところが多く多様化している。このような多様化した活動に対応したネットワークの構築をめざす。</p> <p>実施概要として、イベントを開催し、貧困や孤立している子どもたちへの支援へと繋げ地域全体で活性化をめざす取り組みをおこなった。多様化する支援としてパントリー活動に着眼を置き、6月・7月・8月の3ヶ月には大阪市北区・扇町公園で2720人また、12月には大阪市港区・波除小学校グラウンドで350人の方々に食品を渡すことができた。加えて、この活動を通じ多くのマスメディアが取り上げられることとなった。改めて、コロナ禍での緊急支援の必要性や地域での繋がりに世論喚起ができた。</p> <p>一方、大手スーパーでのフードドライブ活動においても、当法人からのアプローチによりスーパーの数並びに対応する店舗数も確実に増加しており、子ども食堂等の支援に大きく貢献している。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>フードドライブ活動に取り組む事業所は、既に契約をしていたコープ、コーヨー、ダイエーに加えマルナカ、イトーヨーカドー等が契約に結び付き増加店舗を含め100事業所を超えることとなった。各店舗ではフードドライブコーナーを設けられ、それぞれの周期で食品提供を受けている。ただ、引取方法はそれぞれの会社に応じており、流通にかかる時間ならびにコストは増加の一途をたどっている。ボランティア数も増加していない中、今後スタッフの増員や寄付金の増収計画も検討しなければならない。</p> <p>ドライ食品の増加により、子ども食堂をはじめ支援団体への提供も増大している。とりわけ、調理を要しないパントリー活動が増えることによって、気軽に簡単に提供でき食品の流れが大きく変化し提供の増大化に繋がっている。フードドライブ活動でも触れたが、流通食品の増加で検品作業（賞味期限や袋破れ等）も相当数時間を要している。今後の大きな課題として位置づけた。</p> <p>今回の事業アピールとしてイベントを開催したが、マスメディアからの反響も多く大きな成果であり、今後も目的や時期に応じたイベントを随時開催することについて確認した。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
生活困窮者	その他	フードドライブ活動に取り組む事業所50ヶ所以上の目標	新規大手スーパーとの提携 活動事業所の拡大	50ヶ所・102ヶ所	目標値を大きく達成	新規大手スーパーへのアプローチが結果として繋がり大きな成果を得た。活動事業所についてもスーパーの方針の下、拡大した。
生活困窮者	その他	フードドライブ活動に取り組む事業所と子ども食堂をはじめ支援団体を繋げ、地域全体で「食」における貧困問題を解決する一つのツールとして位置づけをはかる。	30の事業所でちいきの子ども食堂をはじめ支援団体と繋げる。	30ヶ所・25ヶ所	ほぼ達成	事業所が拡大したものの、フードドライブでの取扱量がまばらで地域団体を紹介するまでに至らなかった。
生活困窮者	その他	フードドライブ活動に取り組む企業と連携し、市民に「食品ロス削減」活動を周知し活動意識を高める。	イベント開催 ・6月、7月、8月、12月	2021年6月～8月・パントリー実施	達成	イベント開催によりマスメディアにも取り上げられ、大きく市民に「食品ロス削減」ならびに貧困問題の周知でき問題意識を高めた。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>フードドライブに取り組む事業所を50ヶ所以上を目標に30の事業所で地域の子ども食堂や支援団体へ提供できる体制の構築をめざします。それに伴い30の子ども食堂、地域支援団体と継続的な食支援を行うことで地域全体で「食」における貧困問題を解決する一つのツールとして位置づけをはかる。</p>
考察等	<p>今後もフードドライブ活動を推進するため大手スーパーを中心にアプローチを図りつつ、その引取方法についても検討する。各店舗のフードドライブをまとめて配送してくれるスーパーもあるが、その大半は当法人が自ら引取配送をスタッフがやっている。流通コストが増加する中、各地域での子ども食堂や地域支援団体が直接引取を行えるようサポートする。またはスーパーの方で拠点を設け1～2か所の引取で完結できるよう交渉を重ねていく。いずれにしても、継続的な食支援を行うことで地域全体で「食」における貧困問題を解決するため、ローコストを図り推進していく。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
フードドライブ活動の推進	計画通り	大手スーパーを中心にフードドライブ活動推進に向けアプローチをかけてきた。結果、多くのスーパー店舗で実施することになり、現在102店舗にてフードドライブ活動を実施している。まだ、定着していないこともあり物量は様々であるが、スーパーに来店されるお客様には十分なアピールとなった。ただ、賞味期限切れの多い店舗もあり今後大手スーパー側とのガイドラインについても協議が必要とされる。
子ども食堂や地域支援団体との連携	ほぼ計画通り	フードドライブ活動を推進していく中で、実施している店舗と地域の子ども食堂等支援団体への連携について働きをかけてきた。結果、25地域の団体と店舗の連携ができ今後も進められる。ただ、店舗側の引取ニーズと支援団体との物量等がうまくいかないところもあり敬遠する支援団体あり、今後、当法人のサポートも含め検討課題を残している。
パントリー事業	計画通り	企画をしていた、6・7・8月に大阪市北区・扇町公園でパントリー活動を実施した。コロナ禍の中でマスメディアに取り上げられる等大きな反響を呼んだ。さらに、12月にも大阪市港区・波除小学校でもパントリー活動し全体を通じて大きな成果であった。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>パントリー活動のイベントを通じて、マスメディアが取り上げられ大きな反響を呼び、「ふーどばんくOSAKA」の活動、さらには全国のフードバンク事業への活動を改めて周知することができた。一方、コロナ禍オミクロン株による流行で多くの方々が陽性反応が蔓延し、それによる濃厚接触者を含め余儀なく自宅待機している。家族全員が自宅から出ることも制限され買い物に行けない状況で、当法人へ食品の提供を求める問い合わせが増大した。また、長期化されるコロナで収入が著しく落ち込み、生活ができなくなる状況で食品提供を求める問い合わせも併せて増大した。これらの内容をマスメディアが捉え、ローカルであるがテレビ放映され更に大きな反響を呼び、自治体の在り方も含め話題となっている。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>コロナの長期化により生活苦に陥る方が増大している。とりわけ、パートや日給で生活をされている方へダメージが大きい。当法人に食品提供を求められる大半がコロナで職を失った方、または収入が激減した方です。貧富の格差が異常なくらい広がりをみせる世情において、貧困で苦しむ子どもたちがその地域ごとでケアできているのか、置き去りになっていないか、自治体の窓口が主体となり地域支援団体や子ども食堂等を通じてしっかりとサポートできる体制を構築する必要がある。そのための食品提供は、企業からの食品提供やフードドライブなどの拡大を図りつつ、地域支援団体や子ども食堂等との連携し地域全体の絆を深めていく必要がある。当法人は、その橋渡しの役割を担うことができるよう、各ポジションと連携を図り継続的な食支援を拡大していかなければならない。</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	3,934,800	3,646,251	92.7%
	管理的経費	151,200		0.0%
合計		4,086,000	3,646,251	89.2%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	パントリー事業で「持ち帰り袋」にシンボルマークシールを貼付
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	

3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	はい	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述